

2007年2月21日

## バイオ技術で開花した「秀吉由来の桜」の共同植樹式の実施について

独立行政法人国立病院機構徳島病院（以下：徳島病院）と住友林業株式会社（以下：住友林業）は、バイオ技術によって増殖された枝垂れ（シダレ）桜を、このほど徳島病院にて共同植樹することになりました。共同植樹式は2月23日午前10時より実施されます。

植樹することとなった枝垂れ桜は、豊臣秀吉が執り行った「醍醐の花見」で有名な京都市伏見区・真言宗醍醐派總本山醍醐寺に植栽されている『土牛（とぎゅう）の桜（シダレザクラ）』\*から、バイオテクノロジーによりクローン苗の増殖に成功した枝垂れ桜の若木です。

\*日本画家の奥村土牛（おくむら とぎゅう）氏が作品『醍醐』に醍醐寺三宝院（だいごじさんぼういん）の大玄関前にあるシダレザクラを描いたことから、通称「土牛の桜」と呼ばれています。

### 【植樹に至る経緯】

徳島病院では2005年の新病棟建設に伴い、大きな桜の木を切らざるを得なくなりましたが、患者の皆様からは「春を感じられなくなってしまった」と残念に思う気持ちが数多く寄せられました。こうした患者の皆様の声を受けた医師らが思索していたところ、その中の医師の一人が「醍醐寺境内に移植されたクローン桜が開花した」との報道に触れ、本技術の開発にあたった住友林業に相談を行いました。

お花見を楽しみにしている多くの患者の皆様への想いに応えるため、苗木（樹高 約1.2メートル）に加え、2004年春に開花した第一号の記念すべきクローン桜の兄弟にあたる若木（樹高 約5.5メートル）の2本のクローン桜を徳島病院と住友林業グループ、患者の皆様、ボランティアの皆様全員が協力して植えることとなりました。そのため植栽地や植栽時期そして若木の選定、また醍醐寺のご協力等関係者が準備を進め、今回の共同植樹式の運びとなりました。

### 【バイオ技術によるクローン桜の開発】

樹勢が衰え枯死の危険性がある醍醐寺の『土牛の桜』の樹勢回復と後代稚樹の養成に住友林業が取り組むこととなり、2000年にこの枝垂れ桜から組織培養によりクローン苗を大量に増殖する技術の確立に成功しました。その後増殖した苗は順調に生長し、最初のクローン苗を地面に定植してから4年が経過した苗は約5mの高さに順調に生育し、2004年3月に初めて開花しました。このクローン桜はその後醍醐寺境内に移植され、2005年3月に移植後初めて開花となりました。そして組織培養に成功したこの枝垂れ桜を「太閤千代しだれ」と命名し登録しています。

### 【植樹式概要】

（詳細は別紙「太閤千代しだれ」桜共同植樹式スケジュールをご参照下さい。）

- 1.日時 : 平成19年2月23日（金） 午前10:00 ~ 午前11:00
- 2.場所 : 独立行政法人国立病院機構徳島病院  
（住所：徳島県吉野川市鴨島町敷地1354）
- 3.次第
  - ・植樹式
  - ・病棟自治会「青筍会」、ボランティアの皆様による活動報告、ミニ演奏会
  - ・植樹する醍醐寺由来の枝垂れ桜についての講演会

植樹式に合わせて、筋ジストロフィー病棟の患者さんたちの自治会「青筍会」や病院ボランティアの皆様による活動報告や演奏会、そして植栽するクローン桜に関する講演会などを予定しています。

※本リリースの共同植樹式につきましては、無事に終了いたしました。（平成19年2月23日）

[参考資料へ](#)

以上

<本件に関するお問い合わせは、下記までお願い致します。>

住友林業株式会社

コーポレート・コミュニケーション室 佐野、佐藤、西田

TEL：03-3214-2270